

課題探究的な学習の指導展開例（本時）

1年 たしいことはすすんで
 内容項目 A 善悪の判断、自律、自由と責任
 資料名 「やめなさいよ」
 本時のねらい

間違っことを行った友達を正す「わたし」を描いた物語を通して、正しいことを進んで行くとどんな気持ちになるか考えさせ、よいことと悪いことを判断し、正しいと思ったことは勇気をもって行おうとする判断力と心情を育てる。

子どもの学習活動

- 正しいと思ったことを友達に伝えた経験があるかを思い起こす。

友達が悪口を言っていたときに、「ダメじゃない?」と言ったよ。

仲良しだから言いづらいこともあるかも....

- 「やめなさいよ」を読み聞かせ、けんじくんに「やめなさいよ。ひとのくつをなげるなんて。」と言ったとき、「わたし」はどんな気持ちだったかを話し合う。

けんじくんに「やめなさいよ。ひとのくつをなげるなんて。」といったとき、わたしはどんな気持ちだったのかな。

どうしてそんなことをするのかな...というよくわからない気持ち。

かわいそうだから、絶対にやめてほしい。

嫌な気持ちだし、大事な友達にそんなことをするなんて許せない!

いくら仲良しの友達だからと言っても、やっぱりいわるはダメだと思う。

みんなと仲よくしたい。

- 「わたし」は、深呼吸をしてけんじくんに何と言ったかを想像して発表する。
わたしはしんきゆうして けんじくんに なんといったのかな。

わたしは、みんなと仲良くしたいな。だから、靴を投げるのは、やめてほしいよ。

どちらも大事な友達だから、これからはみんながもっと仲良くなれるようにしよう!

けんじくん、だめだよ。友達に嫌なことをしたら自分に返ってくるよ。

正しいと思ったことをすると、どんな気持ちになるでしょう。

相手のことを考えての行動だから、すっきりする。

正しいことを伝えてよかった。

伝えられて、ほっとした。

正しいことを友達に適切な方法で伝えることで、さらに仲良くなることができるね。

- 正しいと思ったことを友達に注意した経験やそのときの気持ちを発表する。
これから自分ができそうなことはあるかな。

「怒るかな?」とちょっと心配だったけれど、友達が間違っ時には、はっきりと伝えてすっきりしたよ。

けんかになるんじゃないかと思って、ちょっと勇気が出なくて友達に言ったことがないな。これならできそう!

- 振り返りを記入する。

相手のことを考えたら、やっぱり間違っていることを伝えた方がよいね。

友達にアドバイスをもらったら、しっかりと聞いて直したい。

[子ども一人一人の学びが深まった姿]

「良いこと」と「悪いこと」を自分で判断し、相手のことを考えて正しいことを適切な方法で伝えることの大切さに気付いている。

セルフチェック 1

(興味・関心・疑問)

『正しいと思ったことを友達に伝えた経験』だけでなく、『友達』や『仲良し』などの身近な言葉からイメージを膨らませることで、子どもが関心をもち、学習に参加できるようにする。

セルフチェック 2

(意欲が持続する)

資料の挿絵を使った、登場人物の行動を整理したりすることで、どの子も意欲をもって追究できるように配慮する。

セルフチェック 3

(課題の解決に向けて見直しをもつ)

資料の続きを読み聞かせることを通して、見直しをもって課題把握できるように努める。

セルフチェック 5

(多面的・多角的に考察)

「わたし」が深呼吸をしてけんじ君に言った言葉を考えることを通して、相手へ思いを適切に伝える方法を多面的・多角的に考えることができるようにする。

【評価】

「良いこと」と「悪いこと」を自分で判断し、相手のことを考えて正しいことを適切な方法で伝える大切さに気付くことができる。
(記述、発言)